

社会福祉法人 上越老人福祉協会

令和3年度 事業実施状況報告

社会福祉法人 上越老人福祉協会

目 次

1. 全体評価	P 1
(1) 収支状況（前年比）の状況	
(2) 法人組織の強化への取組とサービス体制の見直しについて	
(3) 新型コロナウイルス感染対策及び対応状況	
(4) 課題別プロジェクトの進捗状況	
2. 各管理部の報告	P 4
(1) 総務部	
(2) 事業部	
(3) 財務部	
(4) 情報部	
3. 各事業（グループ）の状況	
(1) いなほ園グループ	P 7
(2) 新光園グループ	9
(3) 高田の郷グループ	11

添付（資料集）

1. 全体評価

(1) 収支状況（前年比）の状況

①法人全体の状況

事業計画の確実な実施と資金の適正管理により当期資金収支差額 46,005 千円（積立金 37,384 千円計上）となり、4 期連続プラス決算の良好な経営結果となった。

事業活動計算書では、収益は 2,426,919 千円（前年比 1.9%増）、また費用は 2,342,623 千円（前年比 0.2%増）となり当期活動収支差額 86,585 千円のプラス決算となり堅調な結果。

要因はいなほ園デイサービスセンターと小規模多機能型居宅介護本町楽寿の家の経営改善による収入増の他、主幹事業の 2 特養及び老健においての高利用率の維持といなほ園認知症棟の移設計画の効果による介護度上昇による増加等が影響した。なお、報酬改定（0.70%増）による収益は改定幅が少なかった事もあり微増に留まった。

費用については、前年度決算から新たに計上した処遇改善引当金の取崩の影響で人件費は微増、事業費は単価の上昇により水道光熱費、燃料費が増加したが、事務費の修繕費の減少等で費用の増加は小幅にとどまった。

※参考 資金収支決算状況（括弧内は積立金の計上額）

H 2 9 年度	△35,065 千円 (0)
H 3 0 年度	59,656 千円 (0)
R 1 年度	45,599 千円 (12,500 千円)
R 2 年度	80,590 千円 (14,000 千円)
R 3 年度	46,005 千円 (37,384 千円)

②各事業の状況

2 特養及び老健については高利用率を維持、いなほ園は利用率の低下がみられるが認知症棟移転による介護度の増加により一定の収入を確保した。

なお、介護度については新光園、みずほ園共に上昇、維持の目標を達成した。

施設名	利用率	介護度の差異（前年）	サービス活動差額
いなほ園	98.0%	4.2 (4.1)	17,579 千円
新光園	98.8%	4.1 (4.0)	14,652 千円
みずほ園	99.0%	4.2 (4.2)	9,359 千円
高田の郷	97.4%	2.7 (2.8)	13,724 千円

いなほ園デイサービスは、2か年にわたる経営改善の成果により利用率、収益共に飛躍的に改善した。また高田の郷通所リハビリについては、令和4年6月からの事業リニューアルのための利用調整が影響した。

施設名	利用率	介護度の差異（前年）	サービス活動差額
いなほ園通所	89.4%	2.0 (2.1)	21,732 千円
新光園通所	88.3%	1.8 (1.9)	10,400 千円
高田の郷	73.1%	1.7 (1.8)	△255 千円

敬寿は高利用率を維持したが、入退所及び入退院が影響した他グループホームの収益は減少した。

二つの小規模多機能居宅介護については新たな加算サービスの提供によりサービスの充実と収益増につながった。

施設名	利用率	介護度の差異（前年）	サービス活動差額
敬 寿	99.8%	3.0 (2.8)	△7,113 千円
なかよし寿の家	97.5%	2.4 (2.4)	484 千円
宝寿の家	95.6%	2.3 (2.2)	△379 千円
百寿の家	97.3%	2.5 (2.3)	3,398 千円
本町楽寿の家	98.2%	2.1 (2.2)	11,724 千円
光寿の家	88.5%	2.7 (2.2)	603 千円

(2) 法人組織の強化への取組とサービス体制の見直しについて

①法人本部事務局体制の見直し

令和4年度に計画する法人の組織基盤の強化に向けた再編の準備については、新組織や業務分掌等の具体的な内容を整理、理事長及び理事会の指示を基に検討を重ね作成を完了した。今後は7月の移行に向けた職員周知と準備を進める。

②災害時や感染症に対応する事業継続計画の作成

災害及び感染症発生の際、安心かつ安定的な事業継続がおこなえるよう災害編・感染症編の二つの事業継続計画（BCP）を作成した。

内容は、万が一の際の対応組織や連絡系統、行動計画などの詳細を具体的なものとし、次年度はこれに合わせた各事業所のマニュアル等の整備と想定訓練をおこなう。

③高田の郷通所リハビリのリニューアル

令和4年6月の事業リニューアルに合わせて、サービス内容や人員配置等について検討、新たなサービス体制を編成した。今後は関係機関及び利用希望者に対する説明と周知により利用者確保を進める。

④職員採用について

採用計画に基づく取組により介護職員（4名）看護職員（5名）介護支援専門員（1名）管理栄養士（3名）調理員（1名）の計13名を採用し

た。なお、介護職員4名の内訳は新規学卒2名、切替2名、学卒者については実習や採用活動を通じて信頼関係を構築した成果である。看護師は職員紹介1件と紹介会社2件、hpからの応募が1件であった。

(3) 新型コロナウイルス感染対策及び対応状況

①感染予防のための面会対応について

施設内に立入る直接面会については、前年度からの中止を継続している。代替えとして、非接触による面会やオンラインによる面会を周辺の感染状況や国、県の通知を参考に適時実施した。なお、高田の郷においては長期的な視点から非接触により面会がおこなえる面会設備を整備した。

②感染予防対策の検討と感染状況について

管理者、看護師長により構成する法人対策会議を12回実施、各施設へ具体的な対応について指示をする。また、第7波の流行に合わせ利用者・職員の感染状況（濃厚接触者）等の把握をおこなった。この間、職員感染2名、職員及び利用者の濃厚接触者は74名となったが、施設内や利用者への2次感染は防いだ。初動やゾーニング対応が適切におこなえた成果と考えている。

③コロナワクチン予防接種の実施

5月より医療的な禁忌者除く殆どの利用者、職員等約900名に対し実施した。さらに2月以降、追加接種を上越市及び主治医の協力を得ながら終えた。今後の感染予防と重症化リスクの軽減につながると考えている。

(4) 課題別プロジェクトの進捗状況

①外国人採用プロジェクト

委員を中心に3つの外国人就労に関する制度についての情報収集と説明会等に関する映像を視聴、勉強会により理解を深めた。

また、県内で先進的に外国人就労者の受入れをおこなっている施設（特別養護老人ホーム恵福園）を訪問し、特定技能制度及び技能実習生の受入体制、就労状況等についての情報収集をした。なお、今後は受入の仕組みだけでなく、理念や方針を明確にすることと生活支援を含め環境整備の重要性を感じた。

②食事の在り方プロジェクト

調理員の働き方改革については、作業工程など業務見直しと食事メニュー構成の見直しにより早出の出勤時間が30分繰上げられた。このことについては殆どの職員より高評価であった。

委託業者のサービス提供について意見交換会の機会を設け、事業所側の要望と委託側の互い考えを整理し契約内容に反映した。

2. 各管理部の報告

(1) 総務部

①職員研修

前年度より、開催方法をオンライン方式、動画視聴、個別ワーク等に切替え計画通り実施した。また研修センターでは新潟県認知症研修、喀痰吸引研修を（集合型により）予定通り開催した。なお次年度開催についてはハイブリッド方式の開催を視野に検討する。

実施日	研修名	対象者	講師及び内容	参加者
6/14～ 6/30	共通研修（接遇） 動画視聴	法人全職員 （希望者）	福祉施設職員として必要なビジネスマナーのスキルを学ぶ。	63名
7/13	共通研修（加齢による心身の変化と治療薬）	法人全職員 （希望者）	加齢によって起こる心身の変化とその生活への影響を学ぶ。	68名
7/20～ 7/31	共通研修 上記研修の録画視聴	法人全職員 （希望者）	同上	142名
7/29	監督職研修（ICTと介護ロボット）	監督職	機器の展示とデモンストレーション 協力：さくらメディカル	60名
8/9～ 8/23	基本サービス研修 （感染症予防）個別学習	法人全職員	健康増進の秘訣、免疫についての基礎知識を学ぶ。	350名
8/23	初任者フォローアップ研修	新採用職員	入職からの自分自身を振り返り、現状と今後について考える。	8名
9/6～ 9/22	基本サービス研修 （高齢者虐待）個別学習	法人全職員	身体拘束がもたらす3つの弊害を理解する。	359名
10/4～ 10/15	基本サービス研修 （事故予防）個別学習	法人全職員	事故予防につながる環境設定のヒントを見つけるきっかけとする。	366名
10/1～ 10/20	基本サービス研修 （褥瘡予防）個別学習	法人全職員	褥瘡予防の理解を深める。	336名
11/22～ 12/24	共通研修 （防災と危機管理）	法人全職員 （希望者）	災害の備えや発生時の心得など防災にまつわる基礎知識を身につける。	96名
12/1～ 12/22	基本サービス研修 （動画視聴）（摂食嚥下）	法人全職員	誤嚥タイミングや誤嚥症状、嚥下障害を疑うポイント等の基礎知識を学ぶ。	352名
1/7～ 1/17	基本サービス研修 （動画視聴）（看取り）	法人全職員	終末期の口腔内の理解と変化に合わせたケアの方法、口腔ケアグッズについて。	339名
3/14	スキルアップ研修 オンライン研修	法人全職員 （希望者）	（第2回共通研修フォローアップ） 法人内で使用されている薬の効能や副作用、ケアのポイントを学ぶ。	69名

②職員の労働環境改善

職場環境改善委員会において職員の腰痛検診及び腰痛予防研修、ストレスチェック等を実施し健康管理と環境改善に活かした。

③求人活動

コロナ禍により計画通りの学校訪問がおこなえず資料の郵送や情報提供にとどまった。なお、法人が主催し対面式説明会を2回、オンライン説明会を1回実施、新卒者（介護2名、管理栄養士2名、調理員1名）を獲得した。

④受託事業研修

事業名	実施日	概要
新潟県認知症研修事業	6/1～8/6	認知症介護実践者研修 27名
	10/5～12/3	認知症介護実践者研修 26名
	11/11～11/12	小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 16名
	12/9～12/10	認知症対応型サービス事業管理者研修 21名
喀痰吸引研修事業	7/14～8/18	第1回目 16名
	11/17～12/21	第2回目 13名

(2) 事業部

①サービス標準化への取組

各事業の連携強化とサービスの標準化のため、事業所代表者会議を毎月開催した。また介護保険法改定による運営基準の変更に伴い、全事業所の運営規程を見直し再作成した。今までそれぞれで作成されていた同種別事業の体裁を整え、法人統一の表記内容とした。

②苦情解決委員会の開催

2年ぶりの第三者委員出席での開催と併せ、法人内担当者による中期の苦情報告会を実施した。コロナ禍において第三者的視点を確認する機会となった。

③介護保険対策

前年度のプロジェクトの活動を引き継ぎ、LIFEへの登録作業を開始した。介護サービスの質の評価と科学的介護の取組みの推進に向け、8月より基幹施設において科学的介護推進体制加算を算定した。

(3) 財務部

①資金の管理運用

施設の大規模修繕、設備更新の資金計画を元に積立を行い、法人での積立も継続して行った。

②経営改善の取り組み継続

高田の郷通所リハビリテーション事業の分析、リニューアル検討のための試算を行った。

(4) 情報部

①BCPの作成と災害訓練

法人本部及び主幹3事業に関わる自然災害BCPの策定を完了した。非常災害訓練では大災害時想定 of 駆付け訓練を実施、代行職員が駆付け先事業所を理解する機会とした。また災害発生や迅速な緊急伝達のためのIネットメール訓練を全事業計50回実施し、常時9割程度の職員が活用できるようになった。

②情報管理と教育、発信

個人情報や企業情報漏洩に関するリスクについて委員会として取り纏め、全職員へ周知をした。

SNSコンテンツ等、各種情報ツールの活用状況は以下のとおり

ツール	投稿・発行数	アクセス数	その他・特記
ブログ	123		動画の掲載が可能
Twitter	337	フォロワー (140) いいね (1434) リツイート (59)	日々の様子やお昼の献立に「いいね」や「リツイート」増加
クックパッド	13	延べ 92,955 回 週平均 1,788 回 フォロワー (45)	つくれば8件 キーワード「高齢者向き」「災害」「温まる」人気検索で1位
広報誌	年2回		下期は法人全事業を紹介

③その他

道路交通法改正への対応は確実に準備を進め、令和4年度からのアルコールチェック体制を定めた。また安全運転指針及び各事業所送迎マニュアルの変更を行った。

3. 各事業（グループ）の状況

(1) いなほ園グループ事業実施状況

特 養	<p>(利用率) 98.0% (前年) 98.4% (前年比△0.4%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年より入院者が25件多く(前年71件→96件)入退所も17件多くなり利用率は低下した。原因の把握と対策について検討会を開催し、空床シヨートの活用やロスのない受け入れ等の対策を講じたものの目標に届かなかった。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額17,579千円(前年比△15,363千円) ・認知症専用棟の移転により計画通り介護度が上昇(4.05→4.15)収入に好影響を与えたが、介護報酬の改定により栄養・口腔関係の体制加算がなくなり大きく減収(△7,230千円)した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移転に併せて認知症高齢者のニーズに沿った生活環境とケア体制を整えた。全フロアにおいても状態変化に合わせたサービスが提供できる体制となった。
通 所	<p>(利用率) 89.4% (前年) 77.2% (前年比12.2%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標登録者数に向けた営業活動と、キャンセル補充の調整や情報発信をロスなく行った結果、9月以降ほぼ毎月90%を超え目標を大きく上回ることが出来た。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額21,732千円(前年比14,143千円) ・利用率の上昇に伴い収入が増え、人員配置の調整により人件費が減少したため。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士を中心に集団や個別リハビリの他、多彩なプログラムを自ら選択できる仕組みに変更し、充実したリハビリサービスを実施した。
み の り の 家	<p>(利用率) 100% (前年) 100% (前年0%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居2件、退去1件、年度末待機者数20名と年間通して安定していた。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額4,496千円(前年比671千円) <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽費部会にて3施設共同のパンフレットと館内の様子を撮影した紹介映像を作成、申込者の見学や説明に活用している。
米 岡 の 郷	<p>【みずほ園】(利用率) 98.9% (前年) 98.8% (前年比0.1%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院者数の減(5件→3件)と空床期間の短縮化に努めた結果、前年同様の高利用率を維持した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額9,359千円(前年比2,716千円)

	<p>・利用率が高率で安定したことと、新たに看護・リハビリに関する加算算定により前年比増となった。</p> <p>③サービス実施状況</p> <p>・ユニットケアで活用するアセスメントシート（24 時間シート）の見直しと、記録支援システムのデモンストレーションを実施し効率的な管理・活用について検討した。</p> <p>【光寿の家】（利用率）88.5% （前年）92.6% （前年比）</p> <p>①利用率状況</p> <p>5 月以降入院等により登録終了が続いたため、下期は対象エリアを拡大し営業活動を実施した。その結果一定の利用者は獲得したが（上期 2 名、下期 8 名）目標利用率を達成することができなかった。</p> <p>②収支差額状況</p> <p>・サービス活動増減差額 603 千円（前年比 2,744 千円）</p> <p>・8 月からの新たな加算算定（中山間地加算）と介護度の適正化による上昇（2.0→2.7）によって増収に繋がった。</p> <p>③サービス実施状況</p> <p>・地域へ毎月広報誌を発行したほか諏訪地区福祉活動計画推進委員会へ参加し地域の現状や課題について把握、関係づくりの機会とした。</p>
な か よ し 寿 の 家	<p>（利用率）97.5% （前年）99.1% （前年比△1.6%）</p> <p>①利用率状況</p> <p>・医療機関へ繋げる判断と家族調整に時間を要した上に、入退所が昨年より多く（各 3 件→各 7 件）利用率が低下した。</p> <p>②収支差額状況</p> <p>・サービス活動増減差額 484 千円（前年比 1,697 千円）</p> <p>・職員の欠員や構成の変化による人件費の減少（△1,939 千円）や事業費の減少（△1,021 千円）により前年比増となった。</p> <p>③サービス実施状況</p> <p>・利用者の状態変化時や感染症対応について、いなほ園専門職の助言、評価を基に取り組みケアサービスへ活かした。</p>
宝 寿 の 家	<p>（利用率）95.5% （前年）99.0% （前年比△3.5%）</p> <p>①利用率状況</p> <p>・利用者の状態変化を予測した家族との連携や、待機者への意向確認が不足し結果的に時間的ロスが生まれ利用率の低下に繋がった。</p> <p>②収支差額状況</p> <p>・サービス活動増減差額△379 千円（昨年度比 282 千円）</p> <p>・欠員により人件費は減少した（△1322 千円）が利用率の低下が大きく影響した。</p> <p>③サービス実施状況</p> <p>・毎月町内や家族に向けて広報誌を発行し生活状況や活動を報告した。</p>

(2) 新光園グループ事業実施状況

特養	<p>(利用率) 98.8% (前年) 98.8% (前年比同様)</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上期は99%台の高利用率。下期は入院者が増加し安定しなかったが法人内軽費の協力を得て、空床利用108日分を確保し前年並みを維持した。 <p>② 収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額14,652千円(前年比△1,351千円)。 ・8月から栄養関係の加算算定で約2,100千円の増収に反映できた。一方人件費、水道光熱費が約5,700千円上昇した。 <p>③ サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園全体で重度化による業務負担の効率化に取り組んだ。介護、食事サービスの連携により食事介助業務の軽減が図られた。 ・眠りスキャン(睡眠時の覚醒状態及び呼吸数、心拍数をデジタル化した表示で知らせる機器)のデータの蓄積から、夜間の行動パターンの把握と効果的な看取りにつなげることができた。
通所	<p>(利用率) 88.3% (前年) 85.1% (前年比3.2%)</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規40名、終了27名(前年新規26名、終了31名)IPAD等を用いわかりやすい紹介を行い多くの利用者を確保した。 ・2週間毎の利用分析を実施、その時々状況を把握し対応した。 <p>② 収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額10,400千円(前年比4,865千円) ・新規の総合事業利用者が増加(5名→10名)、介護度が低下した。 ・修繕費、紹介手数料が減少した。 <p>③ サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の活動は頻りにTwitterに投稿、リアクションが増加している。ご家族や関係者が様子を知る機会として活用できている。 ・専門職による個別機能訓練はほぼ毎日実施、事業所選択される要素として定着した。
G H 百 寿	<p>(利用率) 97.3% (前年) 99.4% (前年比△1.9%)</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退所各6名と動きが多かった。法人内においても同時期に入退所が発生したため判定会議済みの待機者がいなくなり、情報収集、面接に時間がかかり利用率に影響した。 <p>② 収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額3,398千円(前年比1,404千円) ・給食費、消耗品費、人件費で削減。 <p>③ サービス実施状況</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症専門ケア加算Ⅱの要件を満たしたため算定を開始した。算定に伴う施設内研修を定期に実施して適切なケアの実践に活かしている。
ケ ア ハ ウ ス 上 越	<p>(利用率) 99.8% (前年) 99.3% (前年比 0.5%)</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退居各 3 名と安定推移。毎月 1 日付の利用率は 100%を確保した。 ・待機者管理は法人軽費 3 事業所共有システムで管理しているため退居後の入居契約に要する期間は 7 日とスムーズであった。 <p>② 収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△539 千円 (前年比 2,100 千円) ・消費税率上昇の還元で受託料が 230 千円増額されたが、電気・ガス代の 870 千円増が影響しマイナスとなった。 <p>③ サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレス軽減のため、出前寿司や中華で五感を感じる機会を作った。 ・自主的な活動に対するポイントカードを作成した。活動には入居者の約半数が参加し意欲増進が期待できる。

(3) 高田の郷グループ事業実施状況

<p>入所 短期含む</p>	<p>(利用率) 97.4% (前年) 96.4% (前年比 1.0%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・突発的な入院が多く一時的に空床が多く発生した。ショートステイを有効に活用し、年間を通じて高利用率を維持できた。 ・計画的に営業エリアを拡大した結果、新規申込者の獲得に繋がった。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 13,723 千円 (前年比 4,404 千円) ・年間を通じて高利用率を維持できたことで収入が増加した。 ・人件費、給食費、医薬品費、燃料費が増加し、修繕費が大幅に減少した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユマニチュードへの取り組みは、利用者よりプラスの反応が得られ、日々のかかわり方における視点を意識していくきっかけとなった。 ・ノーリフティングケアへの取り組みは、道具の導入に加えて携わる職員の意識に変化が見られ、効果に拡がり生まれた。
<p>通所 リハ</p>	<p>(利用率) 73.1% (前年) 71.7% (前年比 1.4%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・併設老健の感染症対応のため、特定曜日の入浴が中止となった。新規申込者は入浴希望の方が多く、利用開始に繋がらないケースが多かった。 ・リニューアルを控え、新規利用者の確保ができず利用率が低下した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△255 千円 (前年比 4,540 千円) ・介護報酬改定の影響で収入が減少。支出は人件費、修繕費が減少した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提供するサービス内容のメインとして、リハビリサービスの位置付けを明確化し、職員意識の再確認を行った。 ・リニューアルを見据えて活動内容を見直し、後期において試行した。
<p>敬 寿</p>	<p>(利用率) 99.8% (前年) 99.1% (前年比 0.7%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退所後、間を置かず入所ができ、年間を通じて高利用率を維持できた。 ・高齢化で重度者が多く、平均要介護度は 3.0 まで上昇した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△7,113 千円 (前年比 3,606 千円) ・高利用率と介護度上昇で収入が増加。異動により人件費が減少した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内で行える楽しみの機会・時間を多く設定し提供することができた。 ・近隣から地元産生鮮野菜等を頂き、話題提供や経費節減に繋がった。
<p>本町 楽</p>	<p>(利用率) 98.2% (前年) 97.9% (前年比 0.3%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用終了を見据え、関係機関への空き情報の発信に努めた。空床期間の

寿	<p>短縮に繋がり、年間を通じて高利用率を維持できた。</p> <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 11,724 千円（前年比 6,921 千円） ・利用率上昇と中山間地事業所加算の算定により収入が大幅に増加した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の在宅生活を継続するための意向確認を行った。ご本人や家族が利用目的を理解したうえでサービスを利用いただくことに尽力した。
千寿園	<p>(利用率) 99.3% (前年) 98.1% (前年比 1.2%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退所から入所までの流れの短縮化と全体共有により、利用率が安定した。 ・生活困窮者、身寄りがない、支援者がいないため独居生活が難しいという申込者が増加しており、様々な対応が必要。入居 5 名、退居 5 名。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 2,645 千円（前年比 2,492 千円） ・受託料の増額は消費税上乗せ分。人件費が減少し、ガス代が増加した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内行事は内容を変更し、小集団化や時間短縮しながら活動を継続した。 ・高齢化や身体状況変化で、施設構造と合わない場面が顕著になってきた。
居宅	<p>①【給付管理数】 1,578 件 (前年) 1,435 件</p> <p>②【予防件数】 405 件 (前年) 407 件</p> <p>③収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 2,715 千円（前年比 2,308 千円） ・管理件数が上昇し収入が大幅に増加した。支出は車両燃料費が増加した。 <p>④実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善計画に沿って管理件数を増やし目標達成した。新規契約者 36 名。反面、死亡や施設入所による契約終了(23 件)や入院(62 件)も多かった。
地域包括	<p>①実態把握 500 件 ②予防給付 1,150 件(内 委託 678 件)</p> <p>③総合事業 856 件(内 委託 303 件)</p> <p>④収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 1,511 千円（前年比△2,069 千円） ・異動による職員の配置換えと、育休復帰職員分の人件費が増加した。 <p>⑤実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ関連での収入減少、失業等による相談支援と債務整理の相談が多くあった。債務については、法テラスや相談機関へのつなぎを行った。 ・一人での対応が難しいケースは複数職種での訪問や面談を行った。

(資料集)

【利用率】

①入所系

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	99.4	97.7	96.2	95.8	95.9	98.6	99.0	99.1	98.4	98.7	99.1	98.5	98.0	98.2
新光園	99.3	99.5	99.8	99.3	99.1	99.1	99.1	98.3	98.2	97.8	98.0	98.4	98.8	98.5
高田の郷	98.0	93.5	96.5	98.4	98.0	98.9	97.5	96.5	97.8	96.6	98.6	98.3	97.4	97.3
みずほ園	99.3	100.0	98.6	98.8	98.6	98.7	98.2	97.0	98.6	100.0	100.0	100.0	98.9	98.5

②在宅系(デイサービス・通所リハビリ)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	79.9	80.5	84.7	88.9	86.5	95.3	94.0	96.2	92.8	83.6	94.5	95.9	89.4	82.0
新光園	87.0	84.4	86.7	89.7	91.0	92.7	90.0	88.2	91.8	88.2	83.5	86.6	88.3	90.0
高田の郷	79.8	78.7	75.7	77.1	75.5	77.0	74.9	68.7	68.4	68.0	68.2	65.2	73.1	82.0

③軽費・ケアハウス

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
千寿園	96.8	96.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	98.1	99.3	100.0
ケア上越	100.0	100.0	98.9	99.4	100.0	99.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.8	100.0
みのりの家	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④グループホーム

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
敬寿	99.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	98.2	99.8	99.0
なかよし寿	100.0	100.0	96.1	94.8	100.0	98.7	88.9	98.7	99.3	96.4	98.0	98.6	97.5	99.0
宝寿	100.0	91.5	91.8	91.3	94.6	91.4	97.8	94.8	97.1	96.4	100.0	100.0	95.5	99.0
百寿	98.5	99.3	89.0	92.3	100.0	100.0	100.0	96.7	96.2	100.0	97.2	98.4	97.3	99.0

⑤小規模多機能型居宅介護

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
光寿	99.8	100	93.2	92.0	82.8	76.0	77.3	81.8	90.2	89.8	90.1	89.0	88.5	90.0
本町楽寿	98.7	100	100	100	95.9	93.4	94.5	99.3	99.1	97.3	100	100	98.2	97.0

⑥居宅介護支援事業(介護給付管理数)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	135	127	133	138	138	136	131	125	128	132	130	125		105

